

拡大するマレーシアの訪日旅行市場：求められるハラール対応
～「MATTA Fair 2017」視察報告～

シンガポール事務所

2017年9月にクアラルンプールにおいてマレーシア旅行業協会（Malaysian Association of Tour & Travel Agents）が主催する「MATTA Fair 2017」が開催されました。主に一般消費者を対象に、例年10万人程度の来場者があるマレーシアの一大国際旅行博覧会です。

今回、自治体国際化協会シンガポール事務所は、日本政府観光局(以下 JNTO) と連携し、ジャパンプースにおいて訪日観光 PR を実施しましたのでその様子をお伝えします。

【MATTA Fair 2017 概要】

概要	マレーシア旅行業協会が主催するマレーシア最大規模の国際旅行博覧会
開催期間	2017年9月8日（金）～10日（日）
開催場所	Putra World Trade Centre (PWTC)
対象	一般消費者
来場者数	約 120,000 人
ジャパンプース 出展企業・団体数	21 企業・団体 うち、自治体関係団体：10 団体 （北海道観光振興機構、北海道小樽市、（一社）東北観光推進機構、茨城県、千葉県、岐阜県、関西観光本部、和歌山県、岡山市、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー）

1. マレーシアの訪日旅行者の状況

2013年7月より実施されたマレーシアの訪日旅行者に対する短期滞在ビザの免除などによる追い風を受け、マレーシアからの訪日旅行者数は年々増加しており、2016年は394,200人（対前年比29.1%増）と過去最高を記録しました。今後も個人旅行の更なる普及により一層の市場拡大が見込まれています。

なお、このような状況を踏まえ、JNTOは今年3月にマレーシアにクアラルンプール事務所を開設し、マレーシアにおける訪日プロモーション事業を一層強化しています。

(参考) マレーシアからの訪日旅行者数の推移 (出典: JNTOウェブサイト)

年次	2013年	2014年	2015年	2016年
訪日旅行者数	176,521人	249,500人	305,500人	394,200人
前年比増加率	+35.5%	+41.3%	+22.4%	+29.1%

2. ハラルへの取組み

マレーシア(人口:約3,200万人)の主な民族構成は、マレー系(約67%)、中国系(約25%)、インド系(約7%)となっています。

「訪日プロモーションのメインターゲットは富裕層が多い中国系であるためハラル対応は特段不要」との意見を耳にすることもあります。今後さらにマレーシアからの訪日旅行者数を増やすためには、やはり人口の大半を占めるムスリム層へのアプローチが不可欠です。

今回の「MATTA Fair 2017」では、JNTOによるムスリム旅行者向けの訪日旅行セミナーが開催され、プレゼンターから訪日した際に活用できるハラル用アプリや日本におけるハラルマークなどが紹介されていました。

また、いくつかの自治体関係団体は礼拝施設のほか、ハラルに対応したレストラン、ホテルなどの施設が地図とともに掲載されたムスリム旅行者向けのパンフレットを配布していました。特にユニークだったのは千葉県ブースで配布されていた千葉市のパンフレットで、女性スタッフがいる、個室がある、礼拝施設がある、動物由来成分・アルコール成分を含まないシャンプーがあるといった条件を備えた美容室まで紹介されていました。



紹介された日本のハラルマーク

マレーシアはハラル産業の国際的な中心(ハラル・ハブ)となることを国策としており、各種のハラル産業振興策を採っています。厳格なマレーシアのハラル認証は国際的にも認知度・信用度が高いことから、その正しい知識を得ることが、ムスリム旅行者誘致への近道となります。

当事務所では、引き続きマレーシアの訪日旅行市場の最新情報を収集するとともに、ハラル産業開発公社などマレーシアの関係機関とも連携しながら正確なハラル情報を発信していきます。

(上玉利所長補佐 鹿児島市派遣)

(佐藤所長補佐 豊橋市派遣)